

天正十五年（1587）豊臣秀吉は廿日市のどこに宿泊したか。

- ① 『毛利輝元は天正十五年（1587）一月九州島津氏平定のため下向する豊臣秀吉が廿日市に止宿するに際し、宿構えに遺漏^{いろう}のないよう命じるとともに、・・・云々』と、道の整備や町入り口の拡副を指示している 資料編Ⅰ 六九一頁。』

（「廿日市町史通史編（上）」 P842 1～4行に記述）

・「廿日市町史資料編Ⅰ」 P691「七 毛利輝元書状」正月十六日付書状が指示文書

- ② 『天正十五年（1587）三月豊臣秀吉は、島津討伐で陸路備中中山迄下り、三月十七日船で廿日市に着き桜尾城に入った。翌日秀吉は巖島に社参して桜尾城に帰り、十九日岩国永興寺^{ようこうじ}に下った。』
（「桜尾城とその時代 藤下憲明著」 P63最末行～P64に記述）

・「桜尾城とその時代 藤下憲明著」 年表 P116 天正十五年三月の項にも記述あり
三月十七日船 云々などこれらの典拠は参考文献50余の内からと推測

- ③ ②の翌日秀吉は巖島に社参してについて

『豊臣秀吉が島津征伐の途次、毛利輝元の案内で参拝した時、この岡にあった大楠を見て経堂を建立することを思い立ち、武将安国寺恵瓊に命じてこれを宰領せしめたと大願寺文書にありと。

（「伊都岐島 巖島神社社務所 昭和五十一年、平成七年十二月改定 P53～57」

この大願寺文書は「広島県史 古代中世資料編Ⅲ」大願寺文書 225号（P1335）。

- ④ 本陣の成り立ち

◆宿駅廿日市

広島藩の宿駅は、御茶屋（藩主の別荘）が設けられた駅と、庄屋らの居宅や町屋を本陣・脇本陣として宿泊する駅とに分けられる。当宿は寛永十年（一六三三）の幕府巡見使の巡察に際し御茶屋が設けられたが寛文年間（一六六一～一六七二）以前に廃止されたようである。寛永七年（一六三〇）の「津和野亀井記」によれば、廿日市本陣役は鳥屋市右衛門が勤めていた。

その後廿日市本陣役は大庄屋や元禄八年（一六九五）に宿送り役（幕府の書状や荷物を扱うことを「天下送り」、藩のものを扱うことを「宿送り」と呼ぶ）に任ぜられた、鎌倉扇が谷（おうぎがやつ）出身の鋳物師（いもじ）山田越後守藤原貞正の次男、次郎貞則の後裔、山田（金屋）次右衛門が代々勤めている。

「廿日市町史 資料編（上）」P847-848。

下線部典拠 町史資料編Ⅲ 7頁下段）

以上より、天正十五年（1587）豊臣秀吉の廿日市の宿泊先は「桜尾城」と推定。

追記 「廿日市の歴史探訪（一）」石田米考 13ページ

天正15年（1587）には豊臣秀吉が九州征伐に向かう途中、桜尾城に着陣したという記録もあります・・・云々。 典拠は？